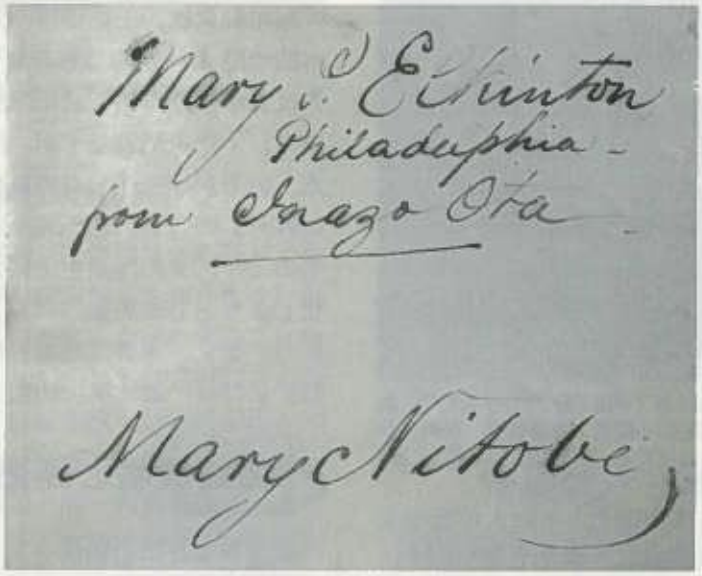
十和田市立 新渡戸記念館だより

結婚前の
新渡戸萬里子夫人
旧姓：メリー P.
エルキントン



本書見開きに▶
書かれた署名

アメリカ留学中の
新渡戸稲造

叔父太田時敏の養子となったため、9歳～27歳まで稲造は太田姓を名乗っており、この当時は太田稲造だった。

新発見 ― 新渡戸稲造旧蔵書より ―

結婚前に稲造が萬里子夫人に贈った日本語入門書

この度稲造旧蔵書の整理中に見つかったこの書籍は、書き込みなどから稲造がドイツ留学中に入手し、結婚前の萬里子夫人（メリー P. エルキントン）に贈ったものと考えられます。萬里子夫人による書きこみも多数見られ、二人にとって大切な記念の本であったと思われます。

書名：An Elementary Grammar of The Japanese Language. with Easy Progressive Exercises.
（日本語初等文典）
著者名：Tatui Baba （馬場辰猪）
出版者：New York. D. APPLENTON AND CO.
出版年：1888年（明治21） 増補第2版

馬場辰猪（ばばたつい）（1850～1888）

明治前期の自由民権家。福沢諭吉の門下生。1870年（明治3）から'78年までに2度渡英し法学を研究。その間に『An Elementary Grammar of The Japanese Language』を著す。共存同衆会員、国友会幹部、自由党常議員として活躍。『自由新聞』などで自由民権思想の啓蒙につとめるが、'82自由党を脱党。'85年爆発物取締罰則違反で逮捕、無罪判決。'86年渡米、日本の武具甲冑や政治状況などを各地で講演。'88年（明治21）11月1日フィラデルフィアで病死。その他の著作『天賦人権弁』『条約改正論』など。

ドイツ留学中の稲造からメリーへ

この本の見開きにある書き込みは、筆跡から稲造本人によるものと考えられますが、そこには「Inazo Ota」（太田稲造）とあります。新渡戸稲造が太田姓を名乗っていた時期は、叔父・太田時敏の養子となった1871年（明治4）から長兄・新渡戸七郎の死により、新渡戸姓に復帰した1889年（明治22）までです。本書の序文が1888年（明治21）1月に書かれていることから考えると、この本は稲造からメリーに1888年から1889年（明治22）の間に贈られたと思われます。稲造は1887年（明治20）5月にドイツ留学のためアメリカを発ち、再びアメリカに戻るのは1890年（明治23）夏で、その頃すでに新渡戸姓に戻っていました。稲造がドイツ留学中、メリーとの間に頻繁に手紙をやり取りしていたことはよく知られていますので、郵送などの手段でフィラデルフィアのメリーに贈った可能性も考えられます。

<次ページへ続く>

Mary Nitobeの署名

1889年（明治22）ベルリンにて。前列左から稲造、近衛篤麿、後列左から白州文平、長瀬鳳輔、久保無二雄。

稲造は「フィラデルフィアのメリー P. エルキントンへ、太田稲造より」という内容の書きこみとともに、すこし大きく「Mary Nitobe」と書いています。インクのにじみ具合や筆の調子から、これらは同時期に書かれたと考えられ、新渡戸姓復帰後、蔵書の整理をするにあたって、稲造が当時を思い出しつつ記したものと思われます。他の田蔵書の中にも蔵書印とともに人手地や人手場所などが稲造の手により類似した形式で書かれているものが見うけられますが、本書の書きこみが単に蔵書整理のためのものでないことは、贈呈当時の二人の状況から想像できます。本書を贈呈したと思われる1888～89年頃、ドイツ留学中だった稲造はメリーとの熱心な文通を経て、ハレ大学在学中（1889年4月～1890年6月）に結婚の意志を固めていたといいます。稲造はメリーを妻として日本に連れて帰ることを考えて、日本語を覚えてほしいという願いからこの書を贈ったのではないでしょうか。稲造はこの頃結婚の決意について養父太田時敏に手紙を送っていますが、届いた返事は外国人との結婚を止めるものでした。エルキントン家の反応も同様で、稲造は1890年（明治23）夏にフィラデルフィアを再び訪れ、翌年の１月まで結婚についてメリーの父母の理解を得るため奔走しています。二人はクエーカー教徒・モリス氏の集会で出会い、熱心な信仰によっても結ばれていましたが、当初クエーカーの主な人々からも二人の結婚は反対を受けていました。約半年を経て、ようやくクエーカーの集会において二人の結婚が認められ1891年（明治24）1月1日集会堂で結婚式をあげましたが、式にメリーの両親は出席しませんでした。1月12日二人は日本に向かいましたが、メリーの両親が結婚を許したのは日本に出発する数日前でした。自分が太田稲造であった頃、メリー P. エルキントンを妻にすることを決意して贈った書であり、そして多くの障害を乗り越えて妻メリー・ニトベとして迎えることができたことの感慨が、「Mary Nitobe」の署名にこめられていると見ることはできないでしょうか。

萬里子夫人の日本語入門書は
現在2F 新渡戸稲造コーナーに展示中！

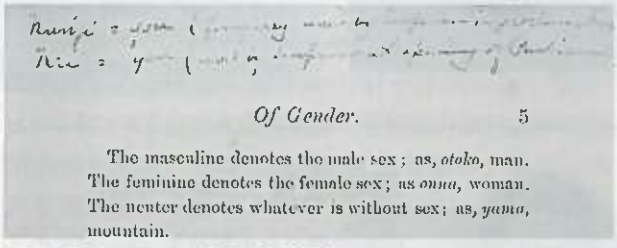
馬場辰猪の著書

「An Elementary Grammar of The Japanese Language」

馬場辰猪は、土佐藩留学生として英国留学中の1873年（明治6）秋、本書初版をロンドンで出しています。この書は日本語の口語文法の解説と練習問題から構成されている日本語入門書ですが、同年初頭アメリカで出版された、駐米代理公使・森有礼（もりありのり）（1847～1889）の著者『日本の教育』の「日本語不完全論」への反論として出されたものです。また国語史上においても、口語日本語を組織化しようとした先駆的試みとしてその意義が高く評価されています。本書は馬場辰猪が亡くなった1888年（明治21）にニューヨークで出版された増補第2版です。

馬場辰猪と稲造の接点

稲造とメリーが初めて出会ったのはクエーカー教徒の大富豪・モリス家における集会でした。1886年（明治19）12月、この集会で稲造が「日本の事情」という講演をした直後、稲造の話に興味をもったメリーをモリス夫人が引き合わせています。モリスは日本人留学生などをよく招いていましたが、この集会に馬場辰猪も参加しており、馬場と稲造には面識があったとみられています。また、当時稲造は不平等条約改正を訴える講演も行っていましたが、馬場はその10年前にイギリスで小冊子『日英条約論』を出し、条約改正を訴えていた人物でした。また、馬場は奇しくも本書を出版した年の11月、フィラデルフィアにおいて亡くなっています。稲造がメリーに贈った書が馬場の著書であったことに何か意味があるのかについては現在調査中です。



Of Gender. 5

The masculine denotes the male sex; as, *otoko*, man.
The feminine denotes the female sex; as *onna*, woman.
The neuter denotes whatever is without sex; as, *yama*, mountain.

▲本のあちこちに萬里子夫人による用例などの書きこみがあります。ここには人の呼び方の用例として「Nanji(汝)＝you（正式に布告の中で天皇が使う）」「Kei(卿)＝you(議会の始まりに天皇が使う)」と書きこんでいます。

◀現五千円札のもととなった写真（稲造56歳）。養女となった姪のことさんの結婚式での記念写真で、隣は萬里子夫人。

盛岡市中央公民館での関係資料調査
調査期日：平成12年11月22日

今回の調査では、当館所蔵「南部利剛公縄張図」をはじめ新渡戸家関係の兵法資料、新渡戸十次郎の詩歌草稿などについて調査を行いました。

◆南部利剛公縄張図の印◆

当館所蔵の盛岡藩主南部利剛公縄張図は、新渡戸十次郎が1857年（安政4）利剛公の兵法お相手を務めたことから拝領したものと伝えられています。今回の調査では昨年盛岡市中央公民館で見つかった歴代藩主の印鑑227点の内、利剛の印鑑44点について当館所蔵の縄張図印影との比較を行いましたが、当館所蔵絵図の捺印と同一のものはありませんでした。盛岡市中央公民館学芸係長高橋清明氏に伺ったところ、他にも印鑑があった可能性も考えられるとのことでした。

◀当館所蔵の南部利剛公縄張図捺印部分

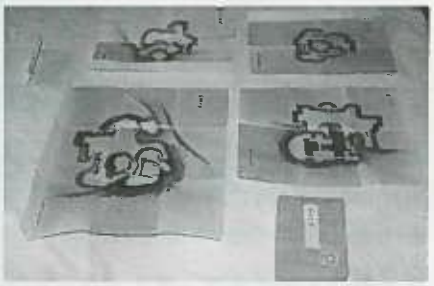
◆新渡戸十次郎「詩歌草稿」◆

新渡戸十次郎は藩内において詩歌の名手として名が知られており、盛岡市中央公民館には十次郎の手による「詩歌草稿」が所蔵されています。草稿には四季折々の題材や心境を詠んだ漢詩や和歌が記されていますが、記載から十次郎が1843年（天保14）当時、詩歌を江幡春庵（通誠）に師事していたことが分かります。春庵（1816～1849）は多くの詩歌を残した歌人であるとともに、藩主・利済公に奥医師として仕えた人物で、十次郎もまた1842年（天保13）中奥小姓として利済公に仕えていました。十次郎は江戸詰となっていた父・傳が讒訴され逼塞（門をとざして白昼の出入を禁ずる罰則）の処分を受けたことから、天保14年2月12日中奥小姓を御役御免となっていますが、草稿には2月22日に春庵にあてて書いたと思われる随想風の文章があり、職を失った当時の心境などを流麗な仮名文字で綴っています。また他に、春庵から加筆や和歌の添え書きを受けた漢詩文などもあり、二人の師弟関係を伺うことができます。春庵はその後藩主の交代紛争に巻き込まれ投獄され、1849年（嘉永2）獄中毒を飲み33歳の若さで亡くなっています。

◀「詩歌草稿」部分（盛岡市中央公民館所蔵）

◆新渡戸七郎兵法縄張図◆

新渡戸十次郎の長男・七郎も兵学を良くまなび、1867年（慶応3）には南部利恭公の兵学御相手をつとめています。盛岡市中央公民館には七郎による兵法縄張図「翫古師範」25点が残っています。



新渡戸七郎兵法縄張図▶「翫古師範」の一部（盛岡市中央公民館所蔵）

◀新渡戸維民「杜陵古事記」（盛岡市中央公民館所蔵）「杜陵」とは盛岡のことで、維民が盛岡の名所旧跡、故事来歴について集め記した書です。

トピックス　太素塚でバードウォッチング

春夏秋冬、太素の森には沢山の鳥が飛んできます。1月13日にはミミズク（トラフズクか）が記念館前に止まっていて驚きました。写真を撮ろうとしましたが、杉の梢に飛び去ってしまい残念でした。今はアトリの大群や、ツグミ、シジュウカラ、カワラヒワ、セキレイ、ヒヨドリ、ハシボソガラスなどが来ています。時にはアカゲラがくちばしで木を打つ音が聞かれることもあります。

★昨年1月～6月まで太素の森で見かけた鳥★

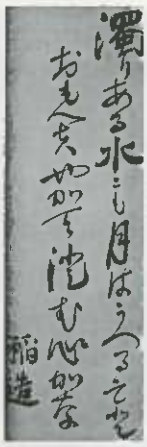
前述の他　ムクドリ・コムクドリ・スズメ・シメ・マヒワ・アオジ・ホオジロ・メジロ・ゴジュウカラ・ヤマガラ・コガラ・モズ・キレンジャク・キビタキ・ウグイス・センダイムシクイ・アカハラ・チゴハヤブサ・キジバト・オオジシギ・ヤマドリ・カッコウ・ハシブトガラス

トラフズク
『原色日本鳥類図鑑』（株式会社保育社出版）より転載

ありがとうございました

◆ 渡辺保夫さん（静岡県三島市）より「BUSHIDO」（1905年版）1冊を寄贈いただきました。

◆ 渡部稲造さん（神奈川県横浜市）より新渡戸稲造直筆の書「濁りある 水にも月は うつるぞと おもへばやがて 澄む心かな」を出品いただきました。



出品いただいた稲造の書▶

関連情報

●拓殖大学創立100周年記念『右手に文化の炬をかかげ―図絵で見る紅陵の青史』出版

拓殖大学では100周年記念事業として1900年～2000年の大学史をまとめた写真誌を出版しました。新渡戸稲造は拓殖大学の前身・私立東洋協会植民専門学校で5年間学監をつとめており、本書で大きく紹介されています。

新渡戸稲造を紹介したページ▶

● NHK 人間講座で新渡戸稲造を紹介

昨年12月まで放送の NHK 教養番組「人間講座・戦争のない世紀のために」の“第三回 地球市民の訴え”で平和を追求した人物として新渡戸稲造が紹介され、当館も取材に協力しました。

●元朝参りのにぎわい

2000年12月31日深夜から2001年1月1日早朝まで、太素塚は21世紀をここでむかえようという参拝者でにぎわいました。

御神酒と甘酒を用意した仮設テント前には行列ができました。

活動報告

●北大文学部新渡戸研究プロジェクトチームとの共同事業として新渡戸稲造旧蔵書 CD-ROM 化に着手

昨年12月から北海道大学文学部新渡戸研究プロジェクトチーム（代表長尾輝彦教授）との共同事業として、当館所蔵の新渡戸稲造旧蔵書を整理し目録を CD-ROM に収録する事業に着手しました。

●青森県立郷土館との共同調査「十和田市立新渡戸記念館所蔵海岸絵図調査」の絵図撮影を行いました。

●「とわだ市民リピーターカード」を4月から発行

十和田市民は当館の観覧料が無料となっていますが、市民の方には確認のために窓口で芳名簿への記帳をお願いしています。市民の再来館時の記帳を省くことができる「とわだ市民リピーターカード」を4月から発行します。ご希望の方は記念館窓口へお申し付け下さい。

●記念館ホームページに新コーナー開設

記念館ホームページの携帯電話端末対応ページ「にとべ記念館ぷち Web」に、新渡戸稲造をはじめとする先人の言葉を毎月ひとこと紹介するコーナー「今月のことば」を追加、（http://www.towada.or.jp/nitobe/Ihome.htm）こどもページには「三本木原開拓の歴史―稲生川をつくるー」を開設しました。

三本木開拓誌・馬関係データベース 3月末に公開予定!!

新渡戸記念館ホームページ内「サイバーライブラリー」に3月末より『三本木開拓誌』（積雪地方農村経済調査所・昭和19年出版）から馬関係の記述を抜粋したデータベースを追加する予定です。
どうぞご利用ください。

『三本木開拓誌』には開拓の▶事務所で書かれた日誌（右の写真）などの資料が収録されています。

〈編集後記〉

早いもので創刊以来6年が経過しました。蔵書の整理では新しい発見に目を見張るものがあります。さらに広い視野に立ってだよりの編集につとめたいと存じます。市民の皆様の暖かいご支援とご鞭撻をお願いいたします。

発行　太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL（FAX）0176-23-4430
E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/nitobe/
印刷　有限会社 岩間印刷所